

# 巻頭言

湘南高等学校 中山拓憲

ntakunori@pen-kanagawa.ed.jp

## はじめに～NPO法人神奈川歴史教育研究会の支援を受けます

この研究報告の作成に、NPO法人神奈川歴史教育研究会（以下、NPO）の支援をいただけるようになり、今までよりも充実した体制でこの冊子を作ることができるようになりました。NPOは、我々、歴史分科会のOBによる組織であり、歴史分科会を支援するために組織されました。我々、歴史分科会のメンバーを中心として執筆して作成した『歴史総合をどう考えるか』も、実はNPOの理事長である石橋功先生を始めとするメンバーたちが、ぜひ歴史分科会の教員に活躍の場を与えたいという意図でつくられた書籍です。粗削りながらも、読んでいてわくわくするような原稿が集まり、組織も活性化したと思います。

NPOからはその他にも、夏季休業中の高大連携講座についても支援を受けており、そのおかげもあって全国から高い評価を受ける企画となっています。

## この研究報告も生まれ変わります。

NPOの支援を受けることに伴って、この冊子も変わります。これまで、NPOの方で、会報を毎年出しており10号まで続いていたのですが、今号からは研究報告とNPOの会報が合わさって一つの冊子になります。NPOの冊子にはいくつか出版社の広告が載っていましたが、研究報告にその広告も乗る形になります。つまり、歴史分科会、NPO、出版社の、それぞれの活動が見れるようになります。今号は、今まで通りの歴史分科会の『研究報告』に加えて、NPOの理事長挨拶と、NPO会報10号の理事長挨拶への反論が理事長のご学友でもある帝京大学元教授の山室建徳先生から届きましたのでそれを載せる形になりました。次号以降、さらに素晴らしい冊子にしていきますのでご支援をお願いします。

## 2028年全国歴史教育研究協議会（全歴研）大会の開催

以前、この分科会のメンバーは長らくベテラン勢で占められていました。しかし、最近はとても優秀でやる気のある20代、30代の教員が増えてきました。その活動の詳細はこの記録におさめられていますが、我々としては、それに止まらず、その活動を全国に発信したいと考えました。そこで2028年にこの神奈川で全歴研大会を行うことを決定しました。全歴研大会とは、毎年、いずれかの県で、全国の歴史教員を集められて行われる、歴史授業について考える大会です。

神奈川では、高大連携、博学連携、日本史と世界史の連携、史跡踏査、また上記の通り書籍の作成など様々な活動実践がありますので、これらの成果を、2028年の教育状況を見据えたテーマのもとにアレンジして、大々的に発信したいと考えております。もし、この会の企画運営や報告に関わりたい先生がいらっしゃいましたら中山にお声がけください。

## 最後に感謝！

この冊子が発行される社会科部会春季大会で、私は歴史分科会の分科会長を退任します。世界史研究推進委員長を務めた期間を合わせれば10年以上になります。新学習指導要領の改訂や、それに先行した生徒主体の授業（いわゆる「AL」）の実践の広がり、新型コロナウイルス感染症の流行など、様々な変化がありましたが、上記の通りメンバーも増えて、幸せな時間を過ごしました。今後、歴史分科会は新体制（ついでに言えば社会科部会も）で、歴史教育（社会科教育）をさらに盛り上げていきます。ぜひ今後とも、よろしく申し上げます。そして、ありがとうございました。